

問6:子育てで大切に思うこと

①日常、親子の会話・コミュニケーション、②善悪の明確化。親自身が模範たること、③社会的ルールを守ること、④感謝の心とやさしさ・思いやり(地域・先人に感謝・愛着の心。人は1人で生きている訳ではないこと)、⑤我慢も出来るたくましい心と体の育成、⑥子供の自立・やりたいことの尊重と支援(子どもがしたい放題の放任主義を支援する訳ではない)、⑦親同士、相談できる経験者との情報交換の場

①明るい家庭(夫婦、親子の仲がよいこと。できるだけ食卓は全員で囲む心がけ)、②子どもの教育方針が夫婦で一致していること。

子供と良く会話すること。親の考えを押しつけないこと。

親子のコミュニケーションを赤ちゃんのうちからしっかりとることが後々の親子関係へ影響すると思う。お互いの存在を認め合うことや子どもも家族の一員として役割を与えることも大切だと思う。

子供も親も共に成長しつつ学んでいくことだと思う。

愛情を持って接すること。子どもの目線に立つこと。子ども達を見守ること(口を出しすぎない)

子供に対して、常に親の愛情を感じさせることに配慮するとともに、悪い行動と良い行動の区別をはっきり子供に認識させる事が大事であると思う。更に、子供の性格を十分把握しての優れた能力を更に伸ばし、劣勢の部分の克服に努力させるしつけを配慮することに親子で取り組むことが大切。

決して自己中心的でなく、わがままにさせない。人を思いやる(人に親切にする)気持ちを待たせる。

事の善し悪しを教えて、年齢に応じたしつけをきちんとすること。子どもがほっとできる場所(家庭)づくりをする。

子どもとのスキンシップ。子どもと目線を合わせての会話。学習だけでなく何か1つでも頑張っていることを応援する。必ず朝食と一緒に食べる時間を持つ。他の子どもと比べない。学校教育に頼るのでなく、親としての責任を持って子どもを育てる。

いつも"愛情"を持って接することが大事だと思う。

コミュニケーションだと思います。自分の子供であっても、一人一人考え方、物事の受取り方等が違うので、話をすることはとても大切だと思います。コミュニケーション不足で、大きな心のずれ違いが生じることがあるので、話をしたり、話以外のスキンシップでのコミュニケーションも通し、お互いを理解していかなければと思います。

子育てで大切なことは「子供は育てるものではない。自分で育っていくものだ。だから私(親)はその手伝いをするのが役目」だと認識することです。子供が自分の思うように行動しないことは多くあります。「私が育てている」という気持ちがあればイライラして子供のあたってしまいます。子供の我を認めて、自分で自分を育てていっているんだと思えば、親も子にのめり込みすぎないのではと思います。でもなかなか難しいですね。

子育てで大切なのは9歳までに躾をすることだと思う。(物事に対して善し悪しの判断をつけさせる。挨拶をきちんとさせる等)子育てで困った場合は、必ず相談をすることだと思う。そのためには地域に相談ができる人、相談する場所が欲しいと思う。

子どもを安心して育てられる地域を作ることが一番求められることだと思う。また保育施設や学童保育の充実も大切。現代は、核家族や共働きなどで、子どもに対して社会全体が無関心になる傾向にある。大人全員で子どもを守り、育むという意識を共有していきたい。

愛されていることを伝えること、スキンシップが大切だと思います。また子どもの存在を認めてあげ、褒めて自信をつけてあげること。

・スキンシップ(愛情、抱きしめてあげる心)・家族だけでなく、近所づきあいをよくして子どもにとって、よい環境を過ごしやすい場所であるという安心感を持たせてあげることが大切であると思う。

自分の幼少時代に比べると、年のちがう子との交流や外遊びの機会がとても減っているように感じる。犯罪の増加、少子化など様々な要因があると思うが、やはり子ども同士で遊ぶことで人間関係が気づけると思うのです。だからもっと地域間の交流(近所づきあい等)が活発になるといいのではと考える。

問9の2: 家庭の教育力が変化していると思う理由

社会性のない親が増えていると思う。親自身が未成熟、常識不足が目立っている。例えば、子どもがいるのに子ども連れで深夜に飲み食いや遊んでいる親、地域とのかかわりを嫌う親(町内の行事も知らない。近所の人の名・顔も知らない。関わりもしない)。原因は競争社会の極端な個人主義と格差社会。自分さえ良ければという考え方、多忙すぎて心の余裕がない。核家族化で経験豊富な高齢者・専門家に相談しないで子育て。世代間の断層

親と子供が接する時間が少なくなったこと、核家族化が進み、おじいちゃん、おばあちゃんの知恵を子供が学ぶ機会が少なくなったこと、過度の競争社会で学習塾等に頼りすぎて、教育は算数や英語などできることが教育だと感じている親が多いために、家庭から本当の意味での教育がなくなった様な気がする。

親の責任のなさが今の世代を作り出している。子孫をきちんと責任を持って育てるのが親の役目だし、責務。行政が手助けするのも大切だが、その前に親が自覚を持たなければ変わらない。

自分たちの子育ての時代と比べ、とても向上していると思う。田舎の保育園や小学校等、行事あるごとにほとんど夫婦単位で出席されています。地域ごとに子育てサークル等も行われている。核家族や共働きが多くなったことかもしれないが、以前は授業参観等学校行事はほとんど母親の役目だったが今は違う。

親が大人になっていない。親が自立していない。親の教育が必要。

自分自身の30年前とさほど変わっていないように思う。住んでいる地域にもよるが、“お受験”などが昔はなかったので学力的な面では落ちるかもしれない。

核家族化が進んだことにより、世代間の対話が減った。生活時間が深夜に及ぶようになり、家庭の形態が多様化し、一家団欒の時間などが減った。また、多様化、専門化した社会の中で、幸せの基準を持つ、持たないにしている場合が多く、何が大切かをしっかり考えるべきと思う。

自分の子どもにちゃんと関心を持ち、向き合おうとする親、自分たちが子どもを育てて行かないといけないという強い自覚を持った親が少なくなったからではないか。また仕事などの多忙により親が家庭で子どもと向き合い、接する時間(話したりふれ合い時間)が減少しているからではないか。

身近に、心の底から悩みを相談助言できる人が必要。

大人のモラル低下が大きいと思う。範とならなければならぬ大人がずるをしたり、ごまかしたり、ものが全てという価値観を植え付けたりして、優しさ、反省する心、人を思いやる心、社会のために尽くしたいと思う心などを置き忘れている人が増えている。また、生活の都市化、複雑に発展した都市生活の中で、ゆったりとした家庭生活を営むことが難しくなっていることも大きな原因。

親が子供に対して無関心すぎると思う。

親が生活をする上でのマナー教育や人を思いやるいたわりの心の教育が低下している。自分本位な親が増えている。親自身も悩み事など相談にのってくれる人が少ないと思う。

親が家庭の中で社会的なルールを教えていないため。

学歴重視の世の中になり、塾、習い事等の時間が相当増え、親子の会話、コミュニケーションが希薄になっている。

社会通念の大きな変化だと思われる。人社会で何が一番大切なのか、何が美しいことなのか、何が一番重んじられることなのか等々、以前に比べ全く変わってきているし、どう考えても低下してきているように思われる。人として生きていくことの豊かさのはきちがいから来ていることかもしれない。

親に時間的な余裕がない。核家族化で親兄弟・親戚に相談ができにくい。地域のつながりが薄れて、相互の連携・助け合いができていない。

核家族で祖父祖母の昔からの知恵が伝わらない。ゲーム中心で外で遊ぶことが少ない。人間と人間の関わりが少なくなっている。

## 問11:家庭教育力向上の手だて

親が生活のゆとりを持つことだと思う。(時間、精神面)子育て中は夫婦共に残業無しや休みの取りやすい環境をつくって欲しい。親に余裕が出て、やっと子供にゆったりとした気持ちで向き合える。

親と子供の対話、そして両親は常にお互いを尊敬しあう姿を見せることではないでしょうか?一番身近な大人が親であり、家庭教育力の向上というのであれば、親がまず意識改革を行い、自分で育て上げる気持ちを持つこと。そしてそのために自分たちが何をどうすればいいかを考えるべきではないでしょうか?今の親は、ある意味”育てる””教育する”ことを放棄していませんか?

保護者は「幼児教育」の専門的知識を持たず、ある意味「素人」である。①学校入学時、小学校4年進級時に幼児教育のテキストで集中的に学校教師、外部講師が教える。②その間は保護者会の後で、2時間程度の幼児教育のテキストで講義を行う。(全校保護者を集めて)。③かねては、保護者の幼児教育テキストを学習、参照するよう指導する。(バイブル化する)

親と子の対話、子どもの自主性を大事にしなが、子どもから信頼されるような親の日常生活、特に子どもの前で配偶者の悪口を言わないことは大事。

家族一人一人がお互いに必要な存在であることを認識し、会話をなるべく心がけ、いろいろな体験を一緒にする。

親の勉強、子育てについて学ぶことが大切だと思う。そのために雑談の場を持つ。まずは、同世代でも良いから集まって子育てについて話し合う。できたら異世代、子育て経験者なども交えて話すことが大切だと思う。健診、妊産婦検診等の場で子どもについて啓発を進めていく。

親に子供とゆっくり向き合う余裕があること。時間的にも気持ち的にも。心の余裕をつくれるような社会的な仕組みが必要。・育休が長期的に自由に取れるような仕組み、・会社が子育てを理解して協力してくれること、・親に対する教育、講座等も増やすこと、・テレビ・ラジオ等を使って、子育ての知恵や「親業」等の番組を増やし、「親育て」をする。著名人がどんどん発言して親育てをすること。

地域の手助けが必要。シニアや手の空いた人達の手助け、又は共働きの親のサポート環境を整える。格差をなくす。

規則正しい生活習慣の重要性を説き、徹底して身につける環境。親の教育。

子どもが小さいうちは、母親が働かなくとも経済的に困らないだけの補助があればいいと思う。長時間保育の子どもは、ずいぶんストレスを抱えているし、母親もくたくたになっているように見える。

子供の前に親のことを考えるべきだと思う。社会の状況や仕事の関係で親のストレスが増え、それが子供に伝わり、子供の精神状態が不安定になるという悪循環が生まれるのではないかと。まず、正社員を増やし、サービス残業をなくすなど親を苦しめる現代のおかしな働き方を改善すべきと考える。

父親の育児参加を進める。広い価値観での育児のため、母親だけに偏らぬようにすることは大切だと思う。父親の育休の増加や残業時間を減らし、学校行事等へ参加するよう促す。学校現場を知ることは職業人としての父親にとってもプラスとなるし、母親との共通の話題から子育ての指針も見えてくるものである。

両親とも忙しいことを逃げ道にせず、学校ばかりに子どもを押しつけないで、しつけなど家庭でできることは家庭でやっていくべきだと思う。休みの日はなるべく子どもと関わって欲しいと思う。子どもの話をよく聞いて欲しいと思う。

元気なお年寄りがたくさんおられるので、子供達がそんなパワーのあるお年寄りと接したり、若年層の親がお年寄りと接し学ぶことでコミュニケーションが増え、地域が活性化するのはないか。できれば昔の遊び(けん玉、お手玉等)が得意なお年寄りが体を使う遊びを教えたり、以前教職だった方が勉強を教えたりする場を作れば、預ける親側が月謝を支払うようにしたらと思う。学童保育等の中にもお年寄りの活躍する場をつくり、お年寄りと子供が触れ合う場をつければ命の大切さも自然とわかってくるのではないかとと思う。

①「子育ては親育て」という言葉が流行しているように、親の育児や養育に対する学習機会を増やす。②職場における育児制度の充実・運用を積極的に図る。親の育児時間や子どもに関わる時間を増やす。③保育所や放課後学級など

まずは親にゆとりを与えること。資金面の補助(児童手当のような手当)、職場への働きかけ(育児に関わる親のための人材派遣。親が短時間勤務や産休、育休の申請をした際に人材確保をするための資金の援助)。心おきなく親が家庭のために仕事を休んだりして育児の時間をつくれる環境づくり。

家庭を社会が支えていくことも大事だと思う。親が、親の親から知恵の伝達断絶や経済的問題等から余裕が少ない現状をいかに緩和していくかも大事ではないか。スクールソーシャルワークの活用もそうした意味でいいことだと思う。身近に何でもはなせる人がいるだけで、どれほど安心できるかわからないと思う。

一人では子育てはできない。やはり親が積極的に学校、地域に関わりを持って子どもと参加することが今は欠けていると思う。その中でものに対する感謝と大切にしている心が生まれると思う。

①自分の子ども時代を思い起こして、子どもとはこうあるべきという信念を持つこと。②家庭における色々な教育を重視し、一人の人間として、親として責任を感じて、子どもの真の姿を見分けてやる。③子どもの人格を尊重し、勉強・誘導・運動・友情・公衆道徳等を徹底して教えるを忘れることなく、継続して実施する心構えが必要と思う。

家族同士、コミュニケーションをはかることがまず第一だと思います。心がバラバラの家庭では、親が何を言っても子供の心に届かないように思います。子供が尊敬できるような親であることも大切だと思います。特別なことではなく、きちんと働き、きちんと社会人としてやっている親ならば、問題ないと思います。

親子ともに忙しく生活している家庭が多い。昔のように週に1回は家族が全員顔を合わせ、一緒に行動するようにはならないものか。子供を持つ従業員にはせめて月1回くらいは子供の休みに合わせた休暇を取れる制度を企業の方でも考えて欲しい。やはり、家庭という単位をしっかりさせないと教育力の向上には結びつかないと思う。

保育園の先生、学校の先生をもっと教育させる。温かく厳しい先生のもとにいれば、子どもも安心して家庭でも子どもは伸び伸びとできると思う。保育料などを安くして、母親に心のゆとりを持たせる。子どもにお金がかかりすぎて心がぎすぎすして余裕がない。そのために母親等は子どもにあたってしまう。子ども全部が欲しくて生まれた子供ばかりではない。行政はもっと考えて欲しい。

家庭教育10か条を意識して実践することはもとより、まず親が家庭の教育力がいかに重要かを再確認すべき。その為、経験者に直接話を聞いたり、研修できる機会をつくる必要があると思う。出産後、すぐに親になるわけではなく、子育てしながら親学を勉強できていくものなので、母子手帳交付と共に、子育てのいろはや家庭の役割、家庭教育力の大切さについて研修できるよう、全国的に働く人も含め、検診日(妊娠の)に研修も組み合わせ、有給の休みとして確保する。(出産前に数回以上)出産後も定期的に研修機会を確保するなどこの時代考えるべき。幼稚園に上がってから義務教育が終了するまでも何らかの勉強会があれば…。

①家族で何でも話し合える温かい家庭を築くこと。②子どもの個性を活かし、長所を引き出せるような環境づくり。(可能な限り祖父母とのふれあいの機会を持つこと)③常に社会生活の中で、遵守すべき基本的事項(他人に迷惑をかけない、交通ルールを守る等)を徹底的に教える。

・家庭の教育力を高めるためには、家庭、学校、地域の連携が不可欠である。・親はややもすると子どもの教育を学校や塾にまかせがちである。家庭での役割と学校での役割をはっきり分けて考える必要がある。・若い親たちが子育てに悩んでいるので子育てについての相談をする人や場所が必要である。・親と子の絆が薄くなっているので親と子が一絆になって何かを作る経験をさせることも必要ではないか。・親が夜型だと子どもと同じで早起きが苦手である。早く寝る習慣をつけ、テレビを見る時間を制限したり(パソコンも)、小学生に携帯を持たせないなどの指導を強化する必要がある。・子どもは親の背を見て育つものであり、親の役割をきちんとすることが必要。

#### 社会教育団体の育成支援

・家庭教育学級では、乳幼児期の両親等の役割・社会性の芽生え期における親の在り方・望ましい人間性の基本の確立への在り方等を研修。

地域における子育て支援の組織作りでは、福祉活動との連携が必要。

夫婦が同じ価値観を持つことは必要と思う。夫が妻に優しくすることで、子供は相手に対する優しさ、思いやりが生まれるのではないかと。今の社会は、共働き世帯が多く、子供達はクラブや塾などで忙しいので一緒に食卓を囲むことが少なくなっているのが原因だろうと思われる。町内会やボランティア活動、課外授業などで学校以外の人々とのコミュニケーションが図れるようになれば、家庭教育力の向上が図れるのではないかと。思う。

#### 親の教育、地域での子育て

## 問12の2: 家庭・地域のつながりの変化の理由について

①社会全体が他人への関与や干渉を歓迎しない風潮がある。②献身的な地域作り等連帯意識が希薄化した。

地域と家庭双方に問題があると思う。例えば小学校時代の子供会の参加率の問題。小学校を卒業すると中高生は地域との接点がなくなる。子供会を卒業した中高生がリーダーとして子供会のメンバーを育成する、そんな試みもあって良いと思う。

地域の伝統行事への関心がなくなってきたように思う。昔のように以前からその土地にいるという人も少ないので、地域への参加も難しくなっているように思う。

家族が分散化して、家庭及び地域における生活体験の伝承が全くとっていいほど成されていない。

子供会活動の弱体化。少子化により遊び仲間が少なく、子どもを通じての親のつきあいも薄くなっているため。

個人の生活に干渉しない、助言しない、見てみないふりをする事が原因と思う。昔と比べ、社会とのつながりが希薄になっている事。昔は、他人の子供でもしかったり、褒めたりして育てたものでした。そこで社会性や協同性と身につけたものですが、現在は、子供が悪いことをして注意しても我が子は叱らず、注意した人を非難したりすることから関心を持たない。

①社会構造の変化に伴う意識や価値観等の変化。特に、物質的に豊かな社会となり、また情報化社会の進展等により個人主義(実際は自己中心的な点が強く感じられるが)を大切にする風潮になってきている。

子供たちの日常が忙しすぎて、地域の人たちとの出会いや接触の機会が少なくなっていることで、身近に住んでいるにもかかわらず、お互いに認知しあった関係ができない。

家庭生活が都市化し、便利になって、それほど地域が協力し合わなくとも快適な生活を送れるようになってから。また、車社会の影響も大きい。住宅地でもほとんど道を歩いている人がいない。道自体も車優先という感じで歩きにくいし、子供を自由に遊ばせることもとうていできず、一軒一軒が孤立している。

生活環境や経済状況等に懸命で、今更学校等の問題には関心がない、学校のことは先生達に任せてという前提があるように思われる。そしてそれが常態化していることが原因だろうと思う。

良くも悪くもそれぞれの家庭がゆとりができ(自由になった)からだと思う。昔は、好き嫌いに関係なく協力するときはしなければいけないという雰囲気があり、工夫して参加していたような気がする。

生活の形が違ってきたため、隣組や町内会や集会、レクリエーション、婦人会、子供会などの各月の楽しい行事や除草作業や食事会などが極端に減り、ご近所のつきあいが淡泊になりすぎ、干渉しないのが原則となってきたから。物騒な事件が多く、信頼できる関係がなかなか構築できにくいから。

①各家庭が経済的に独立できる状態になったので地域からのヘルプを必要としない風習が生じている。②一家庭だけで自立し、地域からの接触を拒否する風潮が生じている。③個人情報重視のあまり、必要とする情報も集めることができず、個人としても通知することを嫌がっている。

核家族が増え、生まれ育った地域以外に住む人が増えたために、現在住んでいるところへの愛着がない。

社会環境の変化で各家庭がバラバラになったこと。外で遊ばなくなったこと、パソコンやゲームなどで部屋にとじこもっている子が増えたことに起因している。共稼ぎ、片親だけの家庭が増え、町内の清掃活動、夏祭りなど色々なイベントに親子で参加できないので地域との関わりができないでいる。

特に新興住宅地では、地域のリーダー的人材の不足・自己中心的孤立感による地域の疎外感等が多い。子供会、老人会、ボランティア団体等の活動の停滞がある。

子ども達は知らない人と話さないように教育され大人達も面倒なことにはかかわりたくないと思っているからだと思う。

子どもたちが帰宅後に外で遊んでいる姿を見るのが少なくなった。学習塾で忙しいのか、家の中でテレビゲームに興じているケースが多いようだ。従って、子供同士のコミュニケーションが取れていないし、地域の人々も無関心にならざるを得ない。

核家族化、塾や習い事が増えた。子供が一人で家でゲームで時間を費やしている。外食の機会の増大、総菜など出来合のおかずで済ませるようになる。共働き世帯の増加。仏壇や神棚の減少により、祖先を思いやることや自分が生かされている事への感謝が少ない。食生活の変化(欧米化)など。

### 問13の2: 地域教育力の変化の理由について

私の住んでいる地域でいえば、強くなっていると思います。理由は世論です。それに背中を押されてしょうがなく…という感じがします。

特に市街地では各家庭毎の教育力がアップしていると思う。最近では家庭・地域・学校がスクラムを組み、地域の教育力は向上している。

子どもを守ろうという防犯意識が最近では高くなっているのもそういう意味ではいいと思う。伝統行事も大切な教育の一つだと思うのでプラスマイナスでゼロで変わらないと思う。

地域社会自体は、今も昔も変わらずいろんな人が生活しているから教育力自体は変化していないと思う。

30年前も50年前も教育を受ける教育をすることは、変わっていないと考えます。全てに教育を受ける環境があることは日本の一番いいところだと思います。

良くなった部分と低下している部分と両方あると思う。

娘を地域が教育していると思えたことが一度もない。

環境は大分変わったが、教育力はあまり気づかない。

①よその子どもへの声掛けが、要らぬお節介になりかねない世相がある。②関わりを避けている、我関せず派の増加。③テレビ、インターネットで知識は得るが、他人から指導されるのをいやがる風潮がある。

近所の子供同士で遊ぶ機会が少ない。(少子化、不審者の存在)ため、学ぶ機会も減っていると思う。他人の子に声をかけても、全く知らないと思われそう。遊ぶ(公園も遊具もなしでおもしろくない)がない。

広い社会生活の中での子供達・大人達との集団行動、年齢・性別に関係ない多くの人々の中での価値観の違う集団での試練・経験が不足してしまっている。子供時代の大切な基礎的教育・経験等が適切な教育指導者に恵まれていないと思われる。地域住民が、今の子供達に声をかけようにも、良いことを誉めようにも、悪いことを叱ろうにも警戒感を持たれる世の中の風潮である。必要以上の子供への過保護も目につくが、凶悪犯罪が現実にかかる世の中では、無理もない面もあるが、子供を取り巻く親しい親族等の協力を得なければならないのではないかとも思われる。

職業の形態が昔と大幅に変わっていて、専業農家の方が減っているから地域に大人(元気に働いている世代)が昼間などに見られない。私の近所の方は自分の子供に対して怒るように私の子供にも接し、怒り注意してくれるが、そういう方も少なくなったように思う。

一つに空間が都市化されたこともあると思う。遊ぶ広場や自然の中でガキ大将一団で遊ぶ集団が見られなくなったようである。子供達が習い事で忙しかったこともあるだろう。が、遊びを通して集団で何かをすることによる教育力も弱くなっているのではないか。

学校、家庭、地域住民との連携、協力がいないこと

核家族化で色々教えてくれるお年寄りがいない。お年寄りも子どものことより自分が楽しむことを大事にしている方が増えた。

協同で何かをすることがあまりなくなり、お互いに顔を合わせずに、そこに住居を構えているだけと認識する人が増えているため、年長者のことに耳を傾けるとか年長者を敬うという意識が希薄になってしまったことが地域のつながりを薄くしてしまっているからだと思う。

世の中全体落ち着きがなくなった。社会の道徳観念が低下した。

生活の形が違って来たため、隣組や町内会や集會、レクレーション、婦人会、子供会などの各月の楽しい行事や除草作業や食事会などが極端に減り、ご近所のつきあいが淡泊になりすぎ、干渉しないのが原則となって来たから。物騒な事件が多く、信頼できる関係がなかなか構築できにくいから。

地域のシルバー人材が増加しているにも拘わらず、主体的(積極的)に地域の活力になっていないのが実情。ゲートボール等を行う気力がある反面、他人のために汗をかこうという奉仕の精神に欠けている。一種の老人公害になりかねない減少とも思われるような危惧を感じている。

自治会等の地域づくり活動の弱体化。地域の社会教育団体の活動の停滞による住民のつながりの欠如。車社会による交通手段、勤労体系、家庭生活等の急激な変化による近隣社会の連携力の弱体化

教育力は子供を取り巻く地域の大人の支えによって成り立つもので、その地域の大人が他の子供への関心を持たなくなったことが教育力の低下につながってきたと思われる。それぞれの地域に根ざした特色あるものを伝承しなくなって来たことなど、無形文化財なども挙げられると思う。

地域のつながりが減り近所でも知らない人が多くなっている。近年多く聞かれる不審者犯罪への不安が知らない人への警戒を強め、すれ違っても挨拶も会釈もしない人間関係が子どもたちにとって普通となる。それが余計子どもたちも守れない環境を作り出す悪循環になっていると思う。

## 問19:モラル・規範意識向上について

①好きだからやる、嫌いだからしないを大人が見過ごさないことが大切。②大人が子どもを指導することが当たり前の社会をつくる。③是非をしっかりと判断できる、そしてそれを行動に移していくことが普通の社会にする。

家庭、地域社会、マスコミ(TV番組作り)等連携した社会教育体制づくり

まずは、モラルを教える側のモラルを高めないと子ども達のモラルは高まらない。大人のモラルを高めるのは、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等メディアを使って必死になってモラル向上を図る必要がある。テレビ番組も規制が入っていいと思う。

しつけは親の責任、教育は学校の責任。今は逆転しているところに問題がある。

親がきちんと教えること。居合わせた地域の人も傍観者にならないこと。

最近では”見つからなければいい”とか”みんながやっているから私も”とか、自分の意志や考えをしっかりと持てない、人に流される子が多いように思う。そこで良い行いをしたり、手伝ったり、助けたり、ボランティア活動等をしたり子どもたちを表彰したり、みんなの前でもっともっとほめてやる必要があると思う。勉強以外のことをもっとほめて欲しい。

①いろいろな世代の人の人生体験の話をかせる。②宗教は取り扱うのが難しいかと思うが、もっと心を支えるような書物を読んだりして、自分で自分を支える力、考え方を養う。③社会的に悪いことは、有無をいわず小さい頃から理屈抜きで教え込む。その上で自我が目覚める頃、それが自然に浸透していけば最高。

①まず第一に日頃の生活の中で「して良いことと悪いことの判別」「あいさつ、礼儀、規範意識」「他人への思いやり、協力、助け合い」等を実際に体験的に教える。このことを父母が自覚し行動を起こすこと。②教育現場でも同様に教える。③地域住民で実社会の中でまた教える。

小学生、中学生を保育園などに通わせ、一緒に遊ばせる。小さい子の模範とならなければならないという自覚を与える。

スポーツクラブを盛んにすることが考えられる。スポーツは、ルールの下にチームが一つになり個々が頑張らなければ勝てない。そうした経験をさせてあげることも子供達にはいいと思う。その意味で祭りも良い。(福岡の山笠が良い例)

昔は「おてんとう様が見ているから」と戒めて善悪を教え込まれた。今は人が見ていながら悪いことをしてもわからないからするという。生活の中で親が事ある毎に善悪を教え、親も子どもの前では絶対に善悪に対して厳しい態度をとるように心がける。

学校教育と家庭教育は両輪。今の形式的な親子面談、家庭訪問だけでなく、お互いに正面から主張しあえるようなコミュニケーションの場を増やすべき。

①日常生活の会話の中で自然な雰囲気の中で「規範意識」を植え付ける。②子どもの行動に対し、賞賛の言葉を探し出す。③子どもの基本的人権を最大限に尊重する。

今の学校はかなり閉鎖的で外部から学校へ行き指導するのは困難。総合学習の時間を活用して自分の地域でいるんな活動をしている人を呼んでためになる話や経験談などを話してもらおう。また、地域の清掃活動などボランティア活動に積極的に参加させることが必要。職場体験をさせることもいいと思う。

校則の内容等にも問題がある学校があるかもしれないが、なぜきまりを守らなければならないのかということ、低学年までしっかりと身につけること、そのためには保護者、教員がもっと積極的に指導するしかないのではないか。特に保護者には。

幼いときから挨拶をすることを指導する。他人の子供でも注意したり、叱ったりする。他人の子も自分の子も同じようにほめたり叱ったりして愛情を注ぐ。

学校全体での取り組み(あいさつ運動、清掃活動、命の授業、職場体験など)入学した時から当たり前のこととして身につくよう小中高校が連携して12年間継続して取り組む。

ほとんどの子供は「してはいけない」と入れたことを素直に守ろうとするし努力もする。ただ中にほんの一握り親や先生に反抗しようとする子どもたちがいてその子たちに回りが影響されるということがよく見られる。特にこの頃は昔学校によくいらした「熱血先生」がほとんど見られない。表面だけの言葉や指導は子どもたちには伝わらないし先生の心や愛が感じられないと子どもたちも心を開かない。先生の適性を重視して採用・指導して欲しい。親の教育も、先生の仕事の一つではないかと思う。

## 問22: 地域教育力向上方策について

子供会、老人会、PTA、消防団、婦人会等地域住民の集まりの横の連携を密にする。子どもの顔と名前を覚えるような住民参加の行事を増やす。

子どもに注意できるかどうかはその子を知っているかどうかによる。声をかけられる関係になるためには自分の子どもがいなくても学校に行く機会があって、先生や子ども達と顔見知りになることが大切だと思う。例えば地域の人が講師となったり、学校でのコンサートや講演会に地域の人が参加できたり、そんな機会が多くあり、気軽に学校に行けたらと思う。外部の人が来ることで子ども達にもいい緊張感があるのではないか

地域をひっぱりリーダー役の育成が必要。

たくさんの人と関わることでコミュニケーション能力が伸びると思う。学校のあらゆる場面で地域の人々の知恵や力を借りるというのは、その土地にしかできない教育ができるのではないだろうか。地域の教育にその地域の色が出されることは、素晴らしいと思う。また、親や教師以外の大人との関わりは、後々子どもの生きる力へとつながっていくと思う。子どもと関わった人はより地域の学校への関心が向くと思う。

①地域の役員(老人会、婦人会等)が参加されていると思うが、他にも広く参加を呼びかけてはどうか。当日のPRとともに実行委員としての参加を募集する。②まずは学校の様子を知らしめるために、地域のためのオープンスクールをし、その後教職員との意見交換会をする。そこから具体策が見えてくるのではないかと。③大人からのお仕着せの行事とならないような活動をするのが大切だと思う。小学生だけの枠にとどまらず、中高大学生とタテのつながりを持たせたらどうか。異年齢の集団の中で子供達は大きく成長する。少子化の昨今、このような場を設定することが求められる。

①地域の大人の結びつきを深めるため、趣味、同好の士をつくりグループ活動を盛んにして子どもの教育まで手を伸ばす。②学校行事等に父母とも参加する風潮をつくる。長期休業中に学校の教師が地域に出向き、地域の声を聞き実態を知る。③子供会の活発化、町内運動会への積極的参加、工作クラブ等趣味のクラブ活動を有志でつくり子どもとの結びつきを多くしていく。

自分たちの地域では、登下校時に見守り隊の活動をしている。(できるときにできる時間だけ)子どもと顔見知りになり、声を掛け合うことから始まりだと思う。

小・中・高生と一緒に活動できる場をつくる。タテのつながりを持たせる。お年寄りに昔のおもちゃなどの作り方を教えてもらい、一緒につくったりする。昔の地域のことについて話を聞く。清掃や、施設訪問のボランティアを経験させる。

地域の高齢者の方々と子育て中の親の定期的な交流会を開き子育ての悩みを語り合う時間を作ることが家庭での子育てを助けることとなり地域としての教育力も向上すると考える。例えば、各地に伝わる祭りやお話し会などに積極的に参加して、その中で自然と周りの人たちとの会話ができるようになるのではないかと。と思う。

地域の公民館を活用し、高齢者も含めて全ての子ども達を自分の子どもとして多くの人と知恵を出し合って育てる必要がある。子ども達には心のやさしさが必要。その為にもいろんな人とのふれ合いが必要です。

基本は挨拶だと思うので、大人同士すれ違ったらあいさつする。子ども達にも大人の方からあいさつをする。

地域教育力は家庭教育力の向上なくしては向上を図ることは難しい。まず家庭での正しいしつけや、親子でのボランティア活動、様々な地域行事・活動への参加から始めてはどうか。

地域住民、学校側も連携一体化、教育の向上を図り、子どもの安全、事故防止に取り組むことが必要。

住民と行政(自治体)とのパートナーシップの構築が最重要課題と思う。そのためには、住民の憲法のような仮称;住民基本条例のような”しくみづくり”が必要と思われる。まず、経験やキャリアの豊富なシルバー人材が、地域の中心となって行政ともタイアップして教育現場への支援活動や地域の活性化のために率先垂範しての積極的な参加こそが必要であると思う。

地域の教育力の向上のための一方策。子どもの健全育成活動を地域全体の組織で取り上げる。「子供会」の活動に大人(青年も)が指導者として参加する。また、目的青少年団体といわれるスポーツ少年団、ボーイスカウト、海洋少年団、緑の少年団等の発団による集団体験活動の助長。(地域全体と小中学校と同PTAとの連携活動が必要条件)

地域全体がわが子と思って接するようにし、地域の人も親も子どもに対して本気に本音で真剣に取り組むことだと考える。全てのことに対して。そして、現在の学校現場は大変多忙だと痛感しているの、教職員の負担を少しでも減らし、保護者同士や、地域住民で解決していけるような体制も必要ではないか。そのためにはやはり大人が変わるべきだ。

①地域同士での声かけが一番だと思う。一方的に広報誌やポスターで参画を募っても、まず率先して関わる人はあまりいない。地域同士が仲良く楽しく、明るくあることが出発点。②地域の人々、家庭、学校が自由に交流を深められる雰囲気作り。互いに責任をなすりつけあうのではなく「子ども達の幸せのため」という視点にたつて、そこを目標に定めていくことが急務。全員が主体者となる。③道路や住宅の整備は進んでいるが、子ども達が自然とふれあい、感性を高めていける環境は、どんどん減っている。創り出すばかりでなく、将来のために大切なものは残していくことが大切。

①時間に余裕がある高齢世代を含め、親や祖父母世代に参加してもらい日頃から交流を行う。②非行化の原因の多くは学校がおもしろくないから？小学1～2年生からマンツーマンで落ちこぼれをつくらないように基礎学力を付けさせる。遊びやスポーツの伝承で体力づくり。(祖父母世代の支援で)③地域の歴史、文化、お祭り、自然体験など世代を超えて参加して育成。

家庭の教育力も地域の教育力も姿・形は異なるとも根底は同じと考える。この観点に立つとまずはヴィジョンすなわち、熊本県が、理想となる社会像、その社会を具現化するための規範を明確に打ち出すことである。当然、県民のコンセンサスを得て策定されるべきものであるが、これは社会教育課といった狭い範疇のものではなく、行政のすべての分野に渡っての指針となるものでなければならない。すなわち行政の縦割りの縄張り意識を捨てたものであり、すべてが共有できるものでなければならない。このような戦略立てを行う必要があるが、これが今のところ見えない。まずは県がどのような社会にしたいかを明確にし、そのための方策・システムを構築し、これを行政のすべての場面で連携して徹底することである。

今も地域のスポーツクラブが活動をしていたり、子供会が活動をしたり、公民館での子供向けの活動があったりするがそれを利用、又は楽しみにしているのはほんの一握りの一定の子どもたちのようだ。子どもたちにとって魅力ある活動内容であって欲しいことはもちろん魅力的な人との出会いを設定することも参加してみたいと思うひとつになる。地域の中学生、高校生、大学生などの若い子たちは子どもたちにとってあこがれだともふれあう機会があったら楽しいだろう。すでに我が地域ではご年配の方(といっても、ものすごくバイタリティーのある元気な方ばかりですが)と子どもたちの交流、地域の方によるパトロールで子どもたちの安全のための見回り、挨拶声かけをしていただき力を注いでいただいているが、なかなか子どもたちには浸透していかず今もなかなか挨拶もしない子供が多い。しかし、だんだん時が経つにつれ「いつものおじちゃん、おばちゃん」と認識され親近感もわき少しずつではあるが挨拶が出来る子も増えているようだ。

今の子ども達に比べ、20～30年前の子ども達は、伸び伸びと明るく育っていたように思う。物を与えるだけが教育でなく、良いこと、悪いこと等に対する地域の目の向け方を考えて、これからの子ども達が健康で素直に将来に夢を持てるように皆が協力していくことが大切と思う。

当面取り組むべきは、地域の前の家庭での教育ではないでしょうか。地域はあくまで支援するという立場だと思っています。その上で、①地域の伝統的な行事等を通じて、世代間の交流を促進する。②大人が持っている遊びのノウハウを教える機会を企画・実施する。この場合、大事なことは、子供にできることは計画・準備の段階から子供にやらせることが大事だと考えます。上げ膳据え膳では子供に何も身に付きません。

現状でよい。地域活動等、大人が子ども達にしてあげる場面が多く、子ども達が自ら考え行動する機会がない。

地域で推進していく上では、公的な機関として、どこが主導権を持つかで方策も違ってくると思います。教育委員会等が住民の幅広い層に関わるよう、また、公的な場所等もうまく利用して取り組めるシステムづくりから始め、住民の協力者を得て未来をつくっていくことが大事と考えます。

今の子どもは、型の範囲内ではしか行動できないようになってきている気がします。たとえば、ゲーム。これを選択したら次はこれ。選択としては何通りもある気がするが、それは、ゲームを作る人の想定内のことで、その範囲しか行動できていない。公園の遊具もそうである。家の子が積み木等で遊んでいると、親の想像もしないものを作っているときがある。子供の想像力の豊かさに驚かされる。この子供の想像力を広げられる(型にはまらない)手助けをしたい。一例として、自然で遊ばせる機会等を増やしたい。アスレチックではなく、人工的なものがない場所で、遊び方を自分でみつけ楽しむ機会を作ってあげたい。